

編集後記

今号の特集では、ヨーロッパ各地の様々なパンやパンをめぐる文化が紹介されている。コメ文化の日本人にとって、今やパンは珍しいものではなくなくなったが、それでもヨーロッパにおけるパン文化の多様性には改めて驚かされる。

私のパンの思い出は、小学校の給食である。食パンに和風のおかずという、今から思えば妙な献立であった。最近の学校給食は米飯が多く、食パンはほとんど出ないらしいとのこと。しかし、日本人がパンを食べる機会はどんどん増えている。

近所のベーカリーに行くと、フランスパンやクロワッサンといったヨーロッパのパンと一緒に、焼きそばパン、コロケパン、唐揚げサンドなど日本ならではの「おかずパン」が並べられている。「おかずパン」が人気なのは、パンと日本食が意外に合うからであろう。ということは、私が食べていた小学校給食も、妙な献立とは言い切れないのかもしれない。いっそのこと、ごはんパンというのはどうだろうか？(信田敏宏)

次号の予告

特集 占い

月刊みんぱく 2009年11月号

第33巻第11号通巻第386号 2009年11月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎 庄司博史

中牧弘允 信田敏宏 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 京都通信社

印刷 市蔵図書

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係にお願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

みんぱくウィークエンド・サロン 研究者と話そう

- 予定時間 14時30分から15時30分(予定)。
- 常設展示場観覧料が必要です。
- *都合により、予定を変更することもあります。

国立民族学博物館(みんぱく)の研究者が、来館された皆様の前に登場します!

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別!
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしています。

11月の開催

11月1日(日)

話者: 庄司博史(民族社会研究部教授)

話題: 五感でふれることば——言語展示リニューアルをめぐる

場所: 言語展示

11月8日(日)

話者: 三尾稔

(研究戦略センター准教授)

話題: インドの街を歩く

場所: 南アジア展示入口

11月22日(日)

話者: 松山利夫(民族文化研究部教授)

話題: ささやかれるアボリジナルの村の崩壊?

場所: オセアニア展示

11月29日(日)

話者: 久保正敏(文化資源研究センター教授)

話題: 展示場の水の器を見る

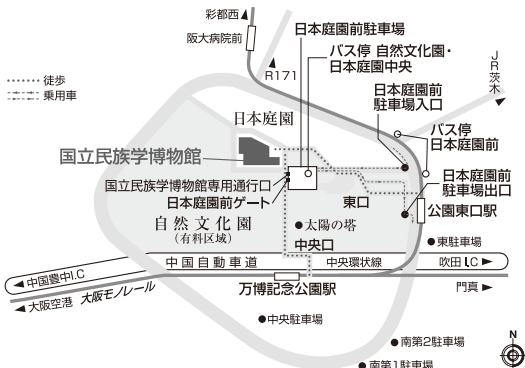
場所: 常設展示場内



タイ語をまなぶタイ人移民の子ども(フィンランド)

1年間みんぱくに何度でも入館できる
「みんぱくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

特典◆常設展の無料入館 ◆特別展の観覧料割引
◆みんぱくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893/平日9:00~17:00)



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れられます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

